

# 日本東京神殿概要



**所在地：**〒106-0047 東京都港区南麻布5-8-10

**最初の建設計画発表日：**1975年8月9日

**最初の鉄入れ式：**1978年4月10日

**最初の奉献式：**1980年10月27～29日

**改修工事開始日：**2017年9月29日

**再奉献式：**2022年7月3日

**設計者：**リチャードソン・デザイン・パートナー  
シップ(RDP)、株式会社 久米設計

**施工者：**株式会社 竹中工務店

**景観設計者：**LOCI、D+M

**照明デザイン：**RDP、株式会社久米設計、株式会  
社YAMAGIWA

**敷地面積：**約4,937平米

**延床面積：**約4,996平米

日本東京神殿は、末日聖徒イエス・キリスト教会の18番目の神殿として、1980年にスペンサー・W・キンボール大管長によって最初に奉献されました。この神殿はアジアに初めて建てられた神殿であり、日本で最初の神殿です。

東京神殿に加え、現在、福岡と札幌にも神殿があり儀式が行われています。また、沖縄では新しい神殿が建設中です。再奉献の後、日本東京神殿は東京地域にある20のステーク(教区と同等)にいる約92,751人の教会員のために使われることとなります。世界では現在、儀式が執行されている神殿、建設が発表された神殿、現在建設中の神殿が合わせて265あります。

## 外観

**建物：**神殿は東京の魅力ある住宅地の一つにあり、隣には歴史的な有栖川公園の緑豊かな風景が見られます。神殿の外壁は、明るいグレーの花こう岩風のプレキャスト・ストーンのパネル289枚からできています。

**尖塔：**神殿の主要外壁の最上部までの高さは約21.5メートルあり、尖塔は天使モロナイ像(高さ約5メートル、トランペットの最上部まで)の足元までの高さが約27.8メートルあります。天使モロナイ像が尖塔の上に初めて設置されたのは2004年です。

**景観：**景観設計者らは、多くの地元に生育する植物を景観に取り入れました。用いられている植物には、紅葉、竹、その他和風の景観に必要な植物があります。以前の東京神殿には少なかった景観が、今回は神殿全体を取り囲むようにつくられています。

**水景：**神殿には1つの滝と2つの和風の浅い池があり、自然な風景を生み出しています。水のせせらぎと景色が広場空間に広がっています。

**窓：**アートガラスの窓には、アースカラーの枠があるエッチングすりガラス窓をセンターパネルに用いたメインウィンドウと、シンプルなすりガラスをセンターパネルに用いたサイドウィンドウがあります。改修工事前は、中央のメインウィンドウにしかアートガラスは用いられておらず、サイドウィンドウはカーテンが取り付けられた透明ガラスでした。アートガラスの窓はRDP社のショーン・ハリソンによるデザインで、ユタ州リーハイのホールドマン・スタジオズ社によって製造されたものです。

## 内装

**模様：**アートガラス、カーペット、布地に用いられた模様にはすべて、着物生地、障子、その他伝統的な日本芸術に見られる伝統的な和風柄が取り入れられています。

**カーペット：**建物全体のカーペットは米国製のナイロン素材の製品で、日本の請負業者によって設置されました。花嫁の部屋、日の栄の部屋、結び固めの部屋のカーペットはすべての羊毛製の手作りで、中国で生産され、日本の請負業者が設置したものです。ロビーのラグ・マットは、ナイロンと羊毛の混紡で、中国で生産されました。花嫁の部屋と正面玄関のラグ・マットのデザインは、伝統的な着物に用いられる絵柄が施されています。

**石：**神殿の床材は場所によって、石やセラミックのタイルが用いられています。構造上の制限から、石と陶材の混合タイルで床が作られているところもあります。

**壁面ペインティング：**壁の装飾ペイントのデザインはシンプルな幾何学模様が施され、アートガラスやその他の建築デザインに用いられたものと同様のモチーフが使用されています。壁面のデザインは、RDP社のショーン・ハリソンのデザインによるものです。

**内装のアートガラス：**内装のアートガラスは外装アートガラスのデザインに合わせて作られています。内装のアートガラスが主に設置されているのは、確認の部屋、結び固めの部屋、そして日の栄の部屋の扉です。アートガラスのデザインはRDP社のショーン・ハリソン、製造はユタ州リーハイのホールドマン・スタジオズが担当しました。

**バプテスマフォントの手すり：**バプテスマフォントの周りの手すりガラスは、日本の請負業者が製造しました。

**照明：**神殿内のほぼすべての照明の基礎的なデザインは、伝統的な日本の提灯のデザインを取り入れ、わら紙のように見えるガラスを使ったものです。星の栄の部屋から月の栄の部屋、日の栄の部屋と階級が増すごとに部屋の装飾もより豪華になり、儀式のために使われる部屋にはクリスタルが飾られています。装飾照明はRDP社のショーン・ハリソンがデザインし、製造と設置は、札幌神殿の装飾照明を担当した日本のYAMAGIWAが請け負いました。

**天井：**天井とクラウンモールディングは、日本のコンサルタントと下請け業者がデザイン、製造、設置を行いました。天井のほとんどはシンプルな石こうボードまたは段差のある天井で、それに合った塗装木材でトリミングが施されています。

**木材製品：**木材製品は日本の下請け業者が日本にて製造しました。

**扉と金属部品：**木製の扉に使用された金属部品は地元で調達されました。

**特注の家具：**3階と4階の廊下にある6つのコンソールテーブルはオーダーメイドされたもので、伝統的な日本の景色を手作業で描いた扉が取り付けられています。採用された絵柄には、桜、菊、松の3つがあります。

**シルク製の造花：**フラワーアレンジメントは東京のフラワーアーティストによって施され設置されました。シルク製の造花は、ソルトレークにいる装飾用造花を担当する宣教師が発注し、日本に届けられました。東京のフラワーアーティストがアレンジした造花が、神殿と神殿別館に飾られています。



# 東京神殿再奉献の意義と目的



## 聖さを捧げる場所 ～祈り・絆・愛～

神殿は、私たち末日聖徒イエス・キリスト教会の会員が毎週礼拝するために集まる教会堂とは別の目的をもつ建物で、私たちにとって地上でもっとも神聖で特別な場所です。

教会堂は、祈り、礼拝、学びの場所として会員かどろかに関わらずどなたでもお越しいただけますが、神殿は、祈りの場所であるほか、神とより高い誓約を交わし、結婚など家族の絆を繋ぐ儀礼を行う特別な場所として古（いにしえ）の世に習い神に奉献されている聖なる建物です。

そこで神殿の神聖さを保つために、神殿に参入するには会員であることに加えてふさわしさの条件が求められます。私たちは自らをふさわしく保つよう努力し、定期的に神殿に参入しています。

神殿は、私たちが神に祈り、夫婦・家族の絆を堅固にし、神と隣人への愛を学び育むことができる特別な場所です。

### 祈り

神殿は、私たちが抱える様々な問題や困難、願い、そして感謝について、祈りを通して神に打ち明ける場所です。そのため、神殿は「祈りの家」とも呼ばれています。

また、心を静めて、神からの導きや助言を聞く準備をし、新たな生活を始める信仰や力を得られるよう願うことができます。

ですから、参入者が神殿で話す時には、ささやくように話す穏やかで静かな雰囲気があるのです。

### 絆

神殿で執り行われる儀式には、夫婦と家族の絆を深め、そのつながりが墓を超えて永遠に続くよう強めてくれる特別な儀式があります。

神殿に参入することで、私たちは愛する家族と死によって別れることになっても再び会うことができること、そして家族の絆はこの世だけでなく神のもとで永遠に続くものであることを感じさせてくれます。

### 愛

イエス・キリストの教えが記録されている新約聖書の中で「律法の中でどのいましめが一番大切か」（マタイ書 22 章 36 節）という問いに対し、イエス・キリストは次のように答えられました。

「心をつくし、精神をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ。第二もこれと同様である。自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ。これら二つのいましめに律法全体と預言者とが、かかっている。」（マタイ書 22 章 37 節～40 節）

神殿で行う祈りや全ての儀礼は、神の私たちに対する愛を強く感じ、同時に私たちの神に対する愛を強める機会にもなります。その機会を通じて、私たちは神と隣人への愛を深め、愛を示すことについて学びます。

### オープンハウス

私たちの教会において最も神聖な場所である神殿は通常公開されることはありません。

しかしながら、今回のように耐震工事など建物にメンテナンスが必要になった場合、一旦閉鎖され、工事終了後ふたたび神に奉献されます。この再奉献までのわずかの期間、建物を限定的に公開しています。

この度、「聖さを捧げる場所 ～祈り・絆・愛～」をテーマにオープンハウスを企画いたしました。

このオープンハウスは 1980 年 10 月以来 42 年ぶりのこと  
とです。

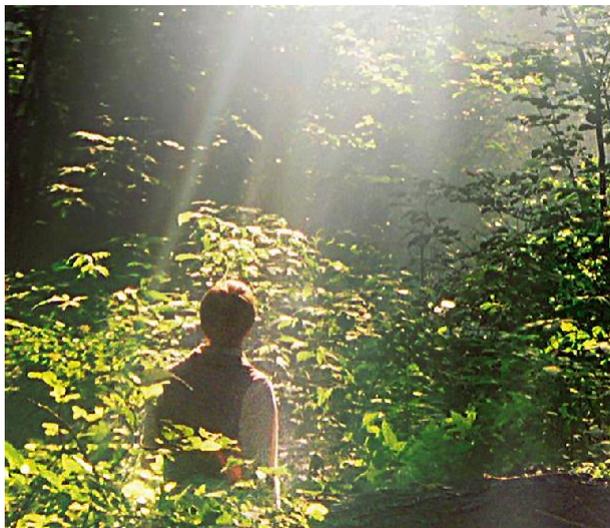
是非、皆さまが神に奉獻される前の特別な建物に入り、  
聖さ、祈り、絆、愛を感じていただけたらと願っております。

現在のコロナ禍の状況ではありますが、監督官庁の指示  
に従い、万全を期して開催できるよう準備を進めておりま  
す。

皆さまのご参加を心よりお待ちしております。



# 教会歴史



## 起源（1820-1830年）

末日聖徒イエス・キリスト教会にとって、ひいては人類の宗教の歴史の中で最も重大で神聖な出来事のひとつは、1820年の春、アメリカのニューヨーク州パルマイラという田舎町で起きました。

19世紀の初め、この地域では宗教復興運動が活発に行われていました。

様々な宗派が相反する教えを説いている中、正しい教えを探していたジョセフ・スミスは、聖書の「ヤコブの手紙」1章5節を読み、「神に願い求めなさい」という勧告に従い、どの宗派が正しいのか神に答えを願い求めることにしました。

後日、家族が所有する農場に近い森の中で、ジョセフ・スミスはひざまずき、神に祈りました。

その時に起きた出来事を、ジョセフ・スミスはのちにこのように記録しています。

「わたしは自分の真上に、…光の柱を見た。…その光がわたしの上にとどまったとき、わたしは筆紙に尽くしがたい輝きと栄光を持つ二人の御方がわたしの上の空中に立っておられるのを見た。すると、そのうちの御一方がわたしに語りかけ、わたしの名を呼び、別の御方を指して、『これはわたしの愛する子である。彼に聞きなさい。』と云われた。」

ジョセフ・スミスは、神とイエス・キリストにお会いするという、聖書の時代以来最も重大で神聖な出来事を経験しました。

そこでジョセフ・スミスは、既存のどの宗派にも入らないように、そしてイエス・キリストが新約聖書の時代に組

織された教会と同じ教会が再度組織されることを告げられました。

その出来事から10年に渡り、さまざまな神の啓示がジョセフ・スミスとそのほかの人々に与えられ、1830年4月6日に「末日聖徒イエス・キリスト教会」が組織されました。

## 「モルモン書」—イエス・キリストについてのもう一つの証（1821-1830年）

上述した特別な出来事からしばらく経った頃、ジョセフ・スミスは神の啓示により、地中に埋められていた金属の版を掘り出しました。それは古代アメリカ文明における宗教の歴史が刻まれた書物であり、ジョセフ・スミスは神の啓示によりその記録を英語に翻訳しました。

この翻訳された書物は、金属の版に記録をまとめ、版を隠した者の名前をとって「モルモン書」と名付けられ、1830年に初版が出版されました。

「モルモン書」は、紀元前2,200年から西暦421年までの古代アメリカ文明における宗教の記録であり、この記録の中には、十字架にかけられたのち3日後に復活をしたイエス・キリストがアメリカ大陸の人々を訪れたときの様子も収められています。

## 「神権」の回復（1829-1830年）

旧約聖書の時代から、預言者は教会の管理や定められた儀式などを神の代わりに執り行うための神権を神から授けられていました。

新約聖書の時代も、イエス・キリストは神権を行使し、またイエス・キリストに従っていた12人の弟子（十二使徒）に神権を授けました。

しかし、彼らの死により、神権を行使する預言者がおらず、その結果聖書の教えに様々な解釈が生じ、多くの宗派が生まれました。

その後1829年5月に、ジョセフ・スミスを通して「末日聖徒イエス・キリスト教会」が組織されるに先立ち、バプテスマのヨハネと名乗る復活者が現れてジョセフ・スミスとその仲間のオリバー・カウドリに神権を授けられました。

その後、ジョセフ・スミスは最初に会員となった6名とともに、1830年に「末日聖徒イエス・キリスト教会」を組織しました。

## 教会の発展と敵対勢力（1830-1844年）

教会設立後、「末日聖徒イエス・キリスト教会」の会員は、周りの人々に教会の教えを宣べ伝え、多くの人々が教会の会員に加わりました。

そして加わった会員は、アメリカで合流するよう勧められ、ヨーロッパやアメリカ東部の州からの移住者が飛躍的に増大しました。それに伴い、周囲の人々の教会への疑念や敵対も強まりました。

混乱を避けるため、教会は本部をニューヨーク州からオハイオ州、ミズーリ州、そしてイリノイ州へと移し、1839年にノーブーという町を作りました。

その後約5年に渡り多くの教会員がノーブーの町に集まり、神殿も建設され、町は栄えていきましたが、反対に近隣の町々は教会に対する疑念と不信感を強め、ついには教会を「絶滅せよ」と呼び掛けるようになりました。

このように教会への反対勢力が益々強くなり、ジョセフ・スミスと兄のハイラム・スミスは、イリノイ州カーセージで武装した暴徒により射殺される事件が起こりました。

## ブリガム・ヤングと西部への旅（1844-1896年）

暴徒たちはその後幾度も、教会員の開拓地を襲撃し、作物や家を焼き壊し、教会員を絶滅させると脅迫し続けました。

残された教会の指導者たちは、教会員を連れてノーブーを去ることを余儀なくされました。

ジョセフ・スミスの死後、代わりに大管長となったブリガム・ヤングは、大勢の教会員を率い未開拓地のアイオワ準州を横断し、現在のネブラスカ州に移住しました。

1847年、教会員はさらに西に1,600キロ離れたグレート・ソルトレーク盆地（現在のユタ州内）への移住を開始しました。

ブリガム・ヤング率いる先遣隊が1847年の夏にグレート・ソルトレークに到着し、その後22年に渡って推定68,000名の教会員が、長く過酷な旅を経てグレート・ソルトレークに移住しました。

その後、ブリガム・ヤングの指揮のもと、南部アルバータからメキシコにかけて開拓者たちが拓いたコミュニティは600以上に達しました。

## そして現在へ（1896-現在）

1896年1月4日にユタは州として承認され、当時約25万人の教会員のほとんどはそこに住んでいました。

さらに、ノーブーを去ってから100年たった1947年には、教会員数は100万人に達し、その多くが北アメリカに住んでいました。

1947年以降、教会は世界的に発展し、現在も教会員数は世界中で増え続けています。現在ユタ州に住む教会員は全体の14%以下、アメリカ合衆国における教会員数は全体の45%となっています。

現在、世界における教会員数は16,800,000人を超えます。



# 末日聖徒イエス・キリスト教会 日本の歴史



## 日本人と末日聖徒イエス・キリスト教会との出会い (1871年)

日本人で最初に末日聖徒イエス・キリスト教会（以下、「教会」）の会員と接触した記録が残されているのは伊藤博文です。

1871年、明治新政府に派遣され、金融制度調査のためにアメリカを訪れた伊藤博文は、大陸横断鉄道の車中で教会の会員であるアンガス・M・キャノンと知り合い、教会の起源とその歴史について2日半にわたって語り合いました。

同年12月、明治政府は先進国の文明視察と条約改正の予備交渉として右大臣 岩倉具視を特命全権大使とする100人以上からなる使節団を世界に遣わし、後に首相となる伊藤博文も一行に加わっていました。

使節団の1年半にも及ぶ米欧視察の旅において最も衝撃的な発見は、西洋文明の精神的支柱にキリスト教があることでした。それが人々の倫理を支え、勤勉の基になっていることに気がきました。

この岩倉使節団は雪のためユタ州に足止めされ、教会の本部があるソルトレーク・シティーに19日間滞在することとなりました。

将来の日本の中枢を担う使節たちが、教会の産業、学校、博物館、劇場を視察し、教会の指導者や会員の家庭を訪問しながら過ごした記録が残されています。

彼らは記録に残る末日聖徒の集会に出席した最初の日本人です。

## 日本への宣教活動（1901年）

当時の第5代大管長（教会の最高位の指導者の役職）ロレンゾ・スノーは日本における宣教活動の開始を発表しました。

発表に伴い、大管長はこのような言葉を残しています。「彼ら（岩倉使節団）はユタとユタにおける教会の開拓の様式に大きな関心を示しました。…また彼らは、私たちがまだ日本に宣教師を遣わしていないことに、かなりの驚きを示しました。この事実は、…現在に至るまで私の記憶にとどまっています。」

日本最初の宣教師として、後の第7代大管長を務めるヒーバー・J・グラント、タバナクル合唱団（現在のテンプルスクウェア・タバナクル合唱団）副隊長のホレス・S・エンサイン、宣教師として経験を積んでいたルイス・A・ケルチ、当時18歳ながらも語学にも熟達したアルマ・O・テイラーの4名が選ばれ、非キリスト教国のアジアで最初の伝道本部が東京に設立されました。

彼らが横浜港に到着した様子は、当日の新聞にも取り上げられ、中には中傷的な内容もありましたが、同時に友好的なものも見受けられました。彼らは、最初思うように進展しなかった伝道活動の中にあっても、機会を見つけては日本の文化を知ろうと努め、日本と日本人を愛しました。

翌年1902年3月8日、日本で最初の改宗者 仲澤元（なかざわはじめ）のバプテスマ（教会の会員となるための儀式）が東京の大森海岸で行われました。

その後、1909年に「Book of Mormon」がアルマ・O・テイラーにより翻訳され、初の日本語訳「モルモン経（現在のモルモン書）」が発行されました。

そのうち一部は革表紙の特製本として天皇陛下（明治天皇）や皇太子殿下（のちの大正天皇）などの皇室や政府高官にも献上されました。

## 反米感情の高まりによる宣教活動の中断（1924年 - 1947年）

日本において、最初の宣教師たちが赴任してから、言葉の壁、文化の壁はキリスト教という宗教が根付くのを困難

なものにしていました。さらに、日本の一部での反米感情の高まりの中、1923年、関東大震災という未曾有の地震災害もあり、宣教活動は中断されることとなりました。

そしてその後、第二次世界大戦も始まり、宣教活動の中断は予想以上に長引くこととなります。日本の会員は大いに落胆しましたが、宣教活動の再開を信じ望みつつ、各々集會を持ち、互いに支え合いながら確固としてその信仰を保っていました。

戦後は軍隊の中にいた多数の会員との礼拝集會が開かれながら、1948年、ようやくGHQの民間情報教育局で働いていたエドワード・L・クリソルドが伝道部会長として派遣され、日本での宣教活動は再開されることとなりました。

### 大阪万博（モルモン館）（1970年）

その後、教会の会員は日本各地で増え続け、1万1千人ほどになりました。

1970年、大阪で開かれた万国博覧会では「幸福の探求」をテーマに「モルモン館」が建設され、半年間で668万8,532人の入場者数を記録しました。

万博協会の名譽総裁であった皇太子殿下（現・上皇）も当パビリオンを見学されています。

### 東京神殿建設発表（1975年）から完成（1980年）

当時、日本には神殿はなく、日本の教会員は最も近いハワイ神殿まで足を運んでいました。現在に比べれば所得水準が低かったこともあり、神殿参入は団体として入念に計画され、だれもが困難の中、毎日の生活を切り詰め、時間をかけて多額の旅費を工面していました。家族が永遠の絆で結ばれるための儀礼を受けるため神殿に参入することは日本の会員を強め、彼らにとって大きな喜びとなっていました。

1975年8月、東京の武道館に日本全国の会員が集まり、第12代大管長スパンサー・W・キンボールにより、世界で18番目、アジアで最初の神殿が東京に建設されることが遂に発表されました。会場に集まった人々にとってこの発表はあまりにも重大で、胸を打つものでした。与えられようとしている祝福の大きさに気づくにつれ、ある者は歓喜の笑みをたたえ、ある者は喜びの涙を拭きました。込み上げる歓喜と感謝は、全会衆の大拍手へと変わりました。

その発表からおおよそ5年後、1980年9月について東京神殿が完成しました。今回と同様オープンハウスが開催され、一ヶ月間にのべ15万人が神殿を訪問しました。

アジアで最初の神殿が建設されたことはテレビや新聞でも取り上げられ、当時の松下電器産業の松下幸之助会長、日本テレビの小林与三次社長、立正佼成会の庭野日敬会長をはじめ、政財界、宗教界、教育界など各界の名士が神殿を訪れました。

日本の会員は今や、その後も教会は発展を続け、2000年には福岡、2016年には札幌で神殿が建設され、2019年4月には日本で4番目となる沖縄での神殿の建設が発表されました。今や多くの会員が神殿の祝福を以前よりもより強くまた身近に感じることができるようになりました。

この度、東京神殿は2017年9月から始まった耐震基準工事等を経て、2022年7月以降、再び稼働することとなります。

### ヘルピングハンズ活動

教会の信条をまとめた「信仰箇条」の第13条には以下のような宣言が含まれています。

「わたしたちは、正直、真実、純潔、慈善、徳高くあるべきこと、またすべての人に善を行うべきことを信じる。どのようなことでも、徳高いこと、好ましいこと、あるいは誉れあることや称賛に値することがあれば、わたしたちはこれらのことを尋ね求めとめるものである。」

教会の会員はあらゆる善いものを追い求め、民族、信仰、信条、伝統、文化が異なろうとも、より善きことがらを分かち合い、助け合い、平和な社会を構築する一員となる事を望んでいます。

1995年の阪神淡路大震災の時には、世間でも多くのボランティア活動が始められるきっかけとなりましたが、教会も神戸の伝道本部と教会堂を避難所及び緊急援助物資の倉庫として解放し、多くの支援を行いました。

その後、教会が行う人道支援活動は、「ヘルピングハンズ」（差し伸べる手）と名付けられ、黄色いゼッケンをつけたボランティアは、クリスチャンとして、その時間と才能を使って助けを必要としている人々や地域に援助の手を差し伸べています。

現在の主な活動内容として、地域の清掃活動や日本赤十字社と連携した献血活動など、また、災害時には救援物資の調達・搬入・運搬、がれきや泥の撤去などを行っています。2011年の東日本大震災においても、教会員は緊急支援から復興支援まで様々な支援を行っています。

現在のコロナ禍においても医療従事者等へのマスクやアルコール消毒液等の寄贈、困窮世帯への食料品の支援など、私たちがクリスチャンとして「隣人を愛する」というキリストの教えを実践し、地域社会へ貢献できる機会を常に模索しています。



# 主要な教義



## 神の特質

末日聖徒イエス・キリスト教会(以下、「教会」)において、神は全人類の霊の父であり、人は神の姿形に似せて創られていることから、神を天父（てんぷ）と呼ぶことがよくあります(「聖書」創世記 1:27 参照)。

教会員にとって、父なる神と、その御子イエス・キリストと、聖霊は、神会(トリニティ)を構成する御三方であり、神は体をお持ちで、その体は完全で栄光を受けたものであると信じています。

## クリスチャン

教会の会員は大別すると「クリスチャン」ですが、カトリックでもプロテスタントでもなく、イエス・キリストが新約聖書の時代に設立された教会と同じ教会が現代に回復されたと主張します。

教会は、神が全人類を死と個人の罪から救うために御子イエス・キリストをお遣わしになったと信じています。

イエス・キリストは教会員の生活の中心にあります。

教会員は、バプテスマを受け(マタイ書 3:13-17 参照)、イエス・キリストの聖なる御名によって祈り(マタイ書 6:9-13 参照)、聖餐を受け(ルカ書 22:19-20 参照)、隣人に良い働きをし(使徒行伝 10:38 参照)、言葉と行いによってキリストを証する(ヤコブの手紙 2:26 参照)ことによって、彼の模範に従おうとしています。(引用はいずれも新約聖書)

教会は、救いを得る唯一の方法は、イエス・キリストを信じる信仰を持つことであると信じています。

## 神聖な神権

神権とは、教会の管理や定められた儀式などを神の代わりに執り行う権利のことです。

教会は、イエス・キリストの弟子たちが亡くなった後、当時の教会から神権が失われてしまい、神の計らいによって再び回復される必要があったと信じています。

そして神権は、神からの啓示と天使の訪れによって、19世紀前半に末日聖徒イエス・キリスト教会に回復されたと主張しています。

また、教会を管理する神権を意味する「使徒の鍵」は、キリストの時代の使徒たちが当時の教会を管理する神権を有していたのと同じように、現在の使徒たちに授けられていると信じています。

## バプテスマと確認の儀式

バプテスマと確認の儀式は、イエス・キリストの教えに従って生活することを神に示し、教会員になるために定められている儀式です。

まずバプテスマの儀式を施す神権を持った人から、全身を水に沈めるバプテスマを受けます。その後、複数人の神権者がその人の頭の上に手を置き「聖霊を受けなさい」と祝福を受けた時に、教会の会員として確認されます。

教会員になった人は、過去の罪から清められると同時に、イエス・キリストの教えに従って生活することを約束します。

## 現代の預言者と継続する啓示

聖書の時代と同様、教会には預言者(神から直接預かった教えを人々に伝える人)と使徒が召されている事が末日聖徒イエス・キリスト教会の特徴の一つです。

教会員は、これまで教会の大管長を務めてきたジョセフ・スミス、ブリガム・ヤング、そしてその後が続く指導者たちを、イエス・キリストの時代のアブラハム、モーセ、イザヤ、そして使徒らと同じように、神の預言者として指示してきました。

ジョセフ・スミスは、イエス・キリストについてのもう一つの証であるモルモン書を翻訳し、19世紀に教会の基礎を築いたことで最も有名かもしれませんが。(「教会歴史」を参照)

その後の教会の大管長らも独自の貢献を果たし、現在はラッセル・M・ネルソン大管長が教会の大管長であり預言者です。

現代にも預言者がいることで、啓示は引き続き与えられ、聖文も新しく付け加えられます。

このように、教会員は、末日聖徒イエス・キリスト教会がイエス・キリストが地上で生きておられたときに建てられた教会が回復されたものであると信じています。

### 「救いの計画」

「救いの計画」とは、神が全人類の幸福と救いのために用意された計画であり、「わたしたちは生まれる前どこにいたのか?」、「わたしたちはなぜ生を受けたのか?」、「わたしたちは死後どこに行くのか?」、という人の存在に関する基本的な疑問に答えてくれます。

この「計画」は人が成長し、学び、喜びを得られるように神が用いられる方法です。

教会の聖典は、すべての人は神の子であり、この地上に生まれてくる前に神とともに住んでいたと教えています。

そこで神は、わたしたちが肉体を得て、地上での生活を一定の期間経験する、という計画を示されました。

この「救いの計画」の中心は、イエス・キリストであり、救い主としてわたしたちの死すべき世での学びの代価を支払ってくださるという役割があります。

この世にあるとき、わたしたちは神から与えられた選択の自由という権利を使い、神に近づくようにも、神から遠ざかるようにも生きることができます。

死ぬ時、わたしたちの霊は体を離れます。わたしたちの体が地上に留まる一方で、わたしたちの霊は、安息の状態または学びの状態、すべての人が復活して完全な愛を持つ公正な神に裁かれる裁きの日を待ちます。

そしてわたしたちの霊は再び体と結合し、復活した状態となって自分の信仰深さに応じた栄光のある場所を受け継ぎます。

すなわちすべての人は、体と霊が永遠に離れることのない不死不滅の状態になるという恩恵を受けますが、神はわたしたちがさらに栄光ある状態—神の御許で家族と共に永遠に暮らす「昇栄（しょうえい）」と呼ばれる状態、を受けられるにふさわしく生活することを望んでおられます。

### 健康の習慣

教会員は健康的な生活を心がけていることで知られています。

教会員のための健康の基準は、1833年にジョセフ・スミス大管長により書き留められ、神の啓示として当時の会員たちに発表されました。

今日、教会はこれらの健康維持のためのガイドラインを「知恵の言葉」と呼んでいます。

知恵の言葉には、摂取すべきでないものとして、アルコール飲料、たばこ、カフェインを含むお茶やコーヒー、そして違法、合法、処方、または規制を問わない薬物の誤用などが挙げられています。肉は「控え目に」用いることや、野菜、果物、穀物など、積極的に摂取するよう推奨されているものもあります。

### 「什分の一」と慈善献金

教会にとって「什分の一（じゅうぶんのいち）」は自然なことであり、宗教的信仰とそれに基づく行動の一部となっています。

聖書による定義では、「什分の一」は毎年の得るもの、または収入の10%を捧げること、と解釈しています。

これは自己申告制で納められ、給与明細などの提示は求められません。

什分の一やその他の慈善献金は、イエス・キリストの福音を宣伝する、貧困者への支援、教会員のイエス・キリストに対する信仰と決意を強める、といった教会の使命を果たすための助けとなります。

### 伝道プログラム

教会の伝道プログラムは、教会の特徴として最もよく知られているものの一つです。

教会員は自分の意志により、男性は18歳以上、女性は19歳以上で宣教師として伝道・奉仕活動に従事します。

宣教師は、聖書に書かれているパターンに基づいて2人1組で行動します。宣教師は定められた期間と地域において奉仕し、福音を教え、信じる人にバプテスマと確認の儀式を施します。

現在、世界中で65,000人以上の宣教師が奉仕しています。

### ボランティアで行う神の務め

教会は会員が金銭的報酬のないボランティアとして働くことで機能しています。

世界各地に「ワード」と呼ばれる教会のローカル・ユニットがあり、教会員は互いに仕え合う意義深い機会を提供してくれる「召し」(アサイメント)に自発的に参加します。

その召しの種類は様々ですが、教会員は自分の召しを果たすために、週に5~10時間程度の時間を捧げます。

### 家族歴史と系図

教会員は、自分の先祖の系図を探し、調べることで、先祖について学び、情報を記録しています。これは、自分の

ルーツを学び、先祖を敬うためだけでなく、イエス・キリストの教えについて学ぶ機会がなく亡くなった先祖の代わりに、バプテスマなどの儀式を神殿で行うためです。

先祖のための身代わりの儀式は、生涯イエス・キリストの教えについて学ぶ機会がなかった先祖が、儀式によって享受できる祝福にあずかることができるように神が定めたものだと思っています。

教会員は、自分の系図を調べることで、先祖の名前や必要な情報を元にバプテスマや結び固めなどの儀式を代わりに受けることができます。

これらの信条や慣習に基づき、末日聖徒イエス・キリスト教会は「ファミリーサーチ」という世界最大の系図情報収集組織を立ち上げました。

1894年以降、「ファミリーサーチ」は100か国以上の公文書保管所、図書館、教会と連携しており、利用者は無料で一般公開されているこれらのサービスを活用して先祖を見つけ、家族歴史を学ぶことができます。

「ファミリーサーチ」は毎年400万に及ぶ新しい歴史記録や情報を追加しており、これらの記録やサービスはFamilySearch.orgのWebページにてオンラインで閲覧できるほか、世界130か国以上、4,700か所に設置されている「家族歴史センター」でどなたでも利用することができます。



# 家族 — 社会の基本単位



第 11 代大管長であるハロルド・B・リーは「あなたが  
行う最も大切な神の業は、あなた自身の家庭という囲  
いの中にあります」と話しています。

どの宗教を信じているかに関わらず、人々は家族につい  
て多くの夢と希望、そして悩みや心配を抱えています。

教会員は家族を中心とした生活は永遠の幸福の鍵であ  
り、また家族の絆が永遠に続くと思っています。末日聖徒  
イエス・キリスト教会は家族の絆を強め、愛や尊敬、そし  
て感謝や平和に満ちた家庭を築くという世界的な取り組み  
を賛同し支援しています。

「いかなる成功も家庭の失敗を償うことはできない。」

この言葉は末日聖徒イエス・キリスト教会、第 9 代大管  
長であるデビッド・O・マッケイの言葉です。

家族は社会の中核であり基本となる単位です。健全な社  
会や文化の構築には、健全な家族を構築するための努力は  
欠かせません。

家族が強められる事により、教育機関や宗教機関など、  
あらゆる社会の機関は強められ貧困や犯罪が減少し、地域  
社会が強められます。家族は社会の経済と対人関係におけ  
る基軸です。

教会員はイエス・キリストの教えに基づいた生活を送る  
事によりこの基軸が強められると確信しています。



# ゲリー・E・スティーブソン

十二使徒定員会会員



ゲリー・E・スティーブソン長老は、2015年10月3日に十二使徒定員会会員に召された。十二使徒定員会に召されたとき、2012年4月から働いていた管理監督会の管理ビショップの職に就いていた。

2008年4月、七十人第一定員会に召され、アジア北地域会長会で顧問として、そして後に会長として奉仕した。

これまでは日本福岡伝道部選任宣教師、ワード日曜学校教師、高等評議員、ステーキ会長会顧問、日本名古屋伝道部（2004年～2007年）を歴任した。

スティーブソン長老は、ユタ州立大学にて経営学学士号を取得。運動機器製造会社のIcon Health & Fitness, Incを共同設立し、2008年まで同社の社長兼最高執行責任者（COO）を務めた。また、数多くの市民活動に携わるとともに、様々な理事会や諮問機関でも奉仕してきた。

スティーブソン長老は父エヴァン・N・スティーブソン、母ヴェラ・ジーン・ホール・スティーブソンの間に1955年8月6日に生まれ、ユタ州キャッシュバレーに育った。

1979年4月リサ・ジーン・ヒグリーと結婚し、4人の子供がいる。



# ケビン・R・ダンカン

七十人



ケビン・ダンカン長老は2010年4月3日、末日聖徒イエス・キリスト教会の中央幹部七十人として支持された。この召しを受けたとき、ダンカン長老は、ユタ州南地域で七十人第五定員会の一員として奉仕していた。現在は、教会本部で神殿部管理 ディレクター補佐および聖典委員会の一員を務めている。

ケビン・R・ダンカン長老はブリガム・ヤング大学で会計学の学士号、税金学の修士号、そして法学博士号を取得した。ワシントン州シアトルで税理士としてキャリアをスタートさせ、1996年にCaseData Corporationを設立した。2005年に同社を退職した。

ダンカン長老は、1960年10月6日、ユタ州オグデンで生まれた。1986年6月にナンシー・エリザベス・スマート姉妹と結婚した。夫妻には5人の子供がいる。



# 和田貴志

七十人



1990年にブリガム・ヤング大学で言語学の学士号を、1996年に経営学の修士号を取得後、ペプシコ傘下のピザハット・オブ・アメリカでキャリアをスタートした。その後カリフォルニア州ユニバーサルシティ、フロリダ州オーランド、大阪のユニバーサルスタジオに勤務。2000年のユニバーサル・スタジオ・ジャパンの企画・開業に直接携わった。

2005年、末日聖徒イエス・キリスト教会の米国とアジアの一部を担当する管理本部ディレクターに就任。日本東京南伝道部会長をはじめ、教会のいくつかの役職を歴任後、2018年3月31日、教会の中央幹部七十人として支持された。現在はアジア北地域会長を務める。

1965年2月5日、長野県で生まれる。1994年に上野なおみ姉妹と結婚し、二人の子供と一人の孫娘がいる。



# ジェームス・R・ラズバンド

七十人



ジェームズ・R・ラズバンド長老は1986年にブリガム・ヤング大学で英語と近東学の学士号を、1989年にハーバード・ロースクールで法学士号を取得。ワシントン州シアトルのパーキンス・コイ社で弁護士としてキャリアをスタートした。1995年、ブリガム・ヤング大学J.ルーベン・クラーク法科大学院の教授に就任。

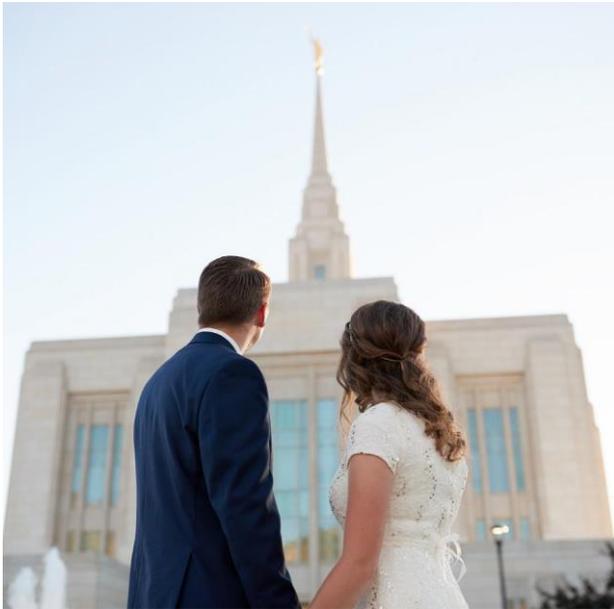
ラズバンド長老は天然資源法の学者として全米で知られ、多くの論文を執筆し、この分野の代表的な教科書も出版している。その後、J.ルーベン・クラーク法科大学院の学部長、ブリガム・ヤング大学の学務副学長を歴任した。

韓国ソウル伝道部の専任宣教師として奉仕後、教会のいくつかの役職を歴任後、2019年4月6日、末日聖徒イエス・キリスト教会の中央幹部七十人として支持された。現在、アジア北地域会長会の第一顧問を務める。

1963年3月20日、ワシントン州シアトルで生まれる。1984年にメアリー・ダイアン・ウィリアムズ姉妹と結婚。ラズバンド姉妹はブリガム・ヤング大学で化学工学の修士号を取得し、非常勤講師として化学工学を教えた。二人には4人の子供がいる。



# よくある質問



## 神殿の目的は何ですか？

末日聖徒イエス・キリスト教会の神殿は、神の家と考えられています。世の中の煩い事から離れて聖さと平安を感じる場所です。神殿は教会員が神との神聖な約束を交わし、決意を行う場所です。

また、神殿は教会の最高の儀式である、永遠の結婚と家族の永遠の「結び固め」と呼ばれる儀式を行う場所でもあります。

加えて、神殿は新約聖書の時代に行われていた、亡くなった先祖のための身代わりのバプテスマ（洗礼）や永遠の結婚などの儀式が行われる唯一の場所です。

神殿は教会員の心をイエス・キリストに向けさせ、キリストの福音に忠実に従って生活するならば、将来イエス・キリストと天父と自分の家族と永遠に住めるということを思い起こさせてくれます。

## 神殿の内部はどのようになっていますか？

神殿の内部は大きなホールや大聖堂のような形態にはなっていません。

神殿の内部は幾つもの部屋に分かれており、それぞれの部屋は儀式の種類によって分けられ、結婚やバプテスマなどの儀式を執り行うために設計されています。神殿の中では、教会員は簡素で慎みのある白い衣服に着替え、神殿の儀式を受けます。

## 神殿の中は一般に公開される事がありますか？

はい。神殿が新たに建築されたり改築されたりする際には、オープンハウスを開催し一般公開しています。

オープンハウスは通常 2 週間もしくはそれ以上の期間実施され、オープンハウスの期間中は、どなたでも神殿の見学を行い、神殿の機能や神殿のさまざまな儀式について質問をすることができます。

## 神殿と礼拝堂の違いは何ですか？

神殿は教会員が通常の日曜日の礼拝のために集う場所ではありません。

日曜日の礼拝行事のために使用する礼拝堂や集会所は世界中に何千とありますが、神殿はまったく異なるものです。

礼拝堂はどの宗教を信じているかにかかわらず、だれでも礼拝行事に参加することができます。

しかしながら、神殿は「主の宮」という聖所であるため、イエス・キリストの教えを忠実に守っている教会員のみ参入することが認められます。

教会員は神殿に参入する際、自分の地元の指導者に戒めを守っているということを証明しなければなりません。

## 神殿は周囲の不動産価値にどのような影響を及ぼしますか？

これまでの経験上、神殿は世界中において周囲の不動産価値に良い影響を与えています。

神殿は熟練の技巧が施され、最良の資材が使われ、地域社会の景観と一致する設計になっています。

## 神殿があることにより交通や駐車場の問題が生じませんか？

いいえ。神殿は一度に大勢の人が来るのではなく、一日を通して常に一定の人数の人々が参入するような方式を取っています。

大勢の人々が一度に押し寄せるような設計にはなっていないため、周辺の道路で渋滞が発生するような交通量にはなりません。

オープンハウスや奉献式（どちらも一回限りの行事ですが）の際は、地元の教会の指導者は近隣の人々と調整を行

い、交通と駐車場の問題を最小限にし、近隣の住人の自宅からの出入りや近隣の商売やビジネスに影響が出ないように配慮します。

### 教会は神殿を利用して地域社会への布教活動を行いますか？

いいえ。神殿は神聖な儀式を行うために使用する場所であり、集会所や布教活動のための場所ではありません。

### 神殿の上にある像は誰ですか？

教会のほぼ全ての神殿の上には、ローブをまとい、ラッパを吹いている男性の像が立っています。

この像は教会が聖書とともに聖典として受け入れている「モルモン書」に登場する古代の預言者、天使モロナイを表しています。

### 教会の神殿は昔から存在していたのですか？

はい。旧約聖書の時代にも新約聖書の時代にも神殿は存在していました。

旧約聖書の時代、モーセはイスラエルの民が荒野を旅しているとき、イスラエルの子たちに「幕屋」（大きな持ち運びのできる神殿）を運ばせました。

ソロモン王は偉大な神殿を建設し奉獻しました。その神殿は紀元前 586 年にバビロニアによって破壊されました。

ソロモンの神殿はその後より大きな神殿として再建されましたが、紀元 70 年にローマ帝国によって再び破壊されました。

その大きな「西の壁」は千年以上経った現在もエルサレムに残っており、ユダヤ人にとって神聖な場所となっています。

新約聖書には、人々が神殿の中庭で商売を行い、その神聖さを損なっていた際、イエス・キリストが神殿から商売人たちを追い払われたことが記録されています。

